

令和3年度

ぶん かげいじゅつ こどもいくせいそうごうじぎょう  
文化芸術による子供育成総合事業  
じゅんかいこうえんじぎょう  
— 巡回公演事業 —

のう もみじがり  
能 「紅葉狩」

せいさく こうえんだんたい  
製作・公演団体  
おおつきのうがくどう  
大槻能楽堂



ぶん かげいじゅつ こどもいくせいそうごうじぎょう—じゅんかいこうえんじぎょう—  
「文化芸術による子供育成総合事業-巡回公演事業-」  
わ くに いちりゅう ぶん かげいじゅつ だんたい しょうがっこう ちゅうがっこうどう こうえん こども すぐれた  
我が国の一流の文化芸術団体が、小学校・中学校等において公演、子供が優れた  
ぶたいげいじゅつ かんしょう きかい える こども はっそうりよく  
舞台芸術を鑑賞する機会を得ることにより、子供たちの発想力や  
こみゆにけーしょんのうりよく いくせい しょうらい げいじゅつか いくせい こくみん げいじゅつかんしょう  
コミュニケーション能力の育成、将来の芸術家の育成や国民の芸術鑑賞  
のうりよく こうじょう もくてき じぜん わーくしょっぷぶ こども  
能力の向上につなげることを目的としています。事前のワークショップでは、子供  
たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。また、実演では、できるだけ子供どもたち  
にも参加してもらいます。

- プログラム 発見！能は面白い！能「紅葉狩」で能楽体験  
◇はじめでの能楽 能楽について (DVD鑑賞)  
◇謡ってなあに？(謡に挑戦)、エア楽器体験でお囃子体験  
◇能でつかうあれこれ (能面・能の登場人物紹介)



能「紅葉狩」あれこれ

• 舞台は現在の長野県



① 伝説

日本神話に登場する天岩戸が飛来したという伝説を持つ戸隠山には、鬼女・紅葉の伝説が伝わり、様々な史跡が残っています。同じ長野県の鬼無里では、紅葉は鬼女ではなく村人を治療する優しい姫と伝わります。

② 歌舞伎にも鬼女が！

能「紅葉狩」の後に出来た伝統芸能「人形浄瑠璃文楽」「歌舞伎」にも「紅葉狩」という演目が作られ鬼女は更科姫という名で登場します。

③ 能「紅葉狩」で使われる面・般若の神秘



能を見たことが無くても、「般若」の仮面は鬼の代名詞として知られています。今回は「紅葉狩」の鬼女が付けて登場します。角が生えて、目が光り、口が裂けて恐ろしい顔ですが、眉間に皺を寄せて、何でこのような姿になったのか、自問しているようです。ということはこの般若は人の心を持っているということなのです。恐ろしくもあり悲しくもありですね

④ 鬼とはなんだろう？

例えば節分の鬼は「鬼は外」「鬼は内」と所々で恐れられたり大事にされたりしています。日本には古くから亡くなった人は近くの人に魂が行くとされ、その魂はあるとき山から降りてきて、悪心を戒めたり、悪をくられたり、その姿は見えないものであったり鬼の姿であったりします。般若の能面が示す通り、人の心には怖い鬼の心、優しい人としての心があるのです。角が生えないように優しい心を育てたいものですね！

• あらすじ

紅葉で美しい戸隠山に狩りに来ていた平維茂一行は、宴（パーティー）をしている美しい上臈（高貴な女性）たちに出会い、一緒に宴に誘われます。お酒で眠ってしまった維茂の夢の中に武内の神が現れ「上臈が実は鬼女である」と告げ、八幡神からの太刀を維茂に授けます。その夢は正夢となり維茂が目を覚ますと太刀があり、美しかった上臈は鬼女の本性を現し、維茂達と戦いになります。

• 能の流れ

平維茂の登場  
上臈との宴  
維茂の夢の中  
武内の神のお告げ  
鬼女と維茂との戦い  
鬼女は討たれる

• いっだれが作ったの？

観世小次郎信光（かんぜこじろうのぶみつ）1450～1516  
室町時代の太鼓の楽器演奏者で、能作者としても数多くの能を作りました。

• 登場人物は？

前半のシテ＝上臈（実は鬼女） 後半のシテ＝鬼女  
ワキ＝平維茂（平安時代の武将） ワキツレ＝維茂の従者  
アイ狂言＝武内の神

• 能の用語

シテ＝能面を付け、鬼や幽霊に変身して、物語の主人公を務めます  
ワキ＝旅僧、武将等の役でシテと共に物語を進めます。面は付けません。  
アイ狂言＝狂言役者が勤め、物語の展開を易しく解説します

• 能の作り物 能舞台上に登場する紅葉が付いた舞台セットを能では「作り物」といいます。今回は秋の紅葉の戸隠山を表しています。

能 紅葉狩「詞章」(能・紅葉狩の台本)

地謡 馬より下りて沓を脱ぎ。馬より下りて 沓を脱ぎ。道を隔てて 山陰の。岩の懸路を過ぎ給ふ。心遣ひぞ。類ひなき心遣ひぞ たる

類ひなき」

上臈 げにや数ならぬ 身程の山乃奥に来て。人は知らじとうち解けて。獨り眺むる 栴葉の色見えけるか如何にせん」

維茂 我は誰とも白眞弓。ただやいとなき御事に。恐れて忍ぶばかり なり」

上臈 忍振摺誰ぞとも。知らせ給はぬ道の辺乃。便に立ち寄り給へ かし」

維茂 思ひ 寄らずの御事や。何しに我をば留め給ふべきと」

上臈 さらぬやうにて過ぎ行けば」

上臈 あら情なの御事や。一村雨の雨宿り」

維茂 「樹の蔭に」

上臈 立ち寄りて」

地謡 「二河の流れを汲む酒を。いかでか見捨て給ふべきと。 はずかしなが 袂に縋り留むれば。さすが岩木にあらざれば。 恥かしながらも 袂に縋り留むれば。さすが岩木にあらざれば。 心弱くも立ち帰る。所は 山路の菊の酒何かは 苦しかるべき」

地謡 かくて時刻も移り行く。雲に嵐乃聲すなり。散るか眞拆の 葛城の。神の契りの夜かけて。月の 盃 さす袖も。雪を廻らす たる

袂かな」

地謡 堪へず紅葉」

上臈 堪へず紅葉青苔の地」

地謡 堪へず紅葉青苔の地。又これ涼風暮れ行く空に。雨うち濺ぐ夜嵐乃。物凄しき。山陰に月待つ程のうたた寝に。片敷く 袖も露深し。夢ばし覚まし給ふなよ」

アイ狂言 八幡神の使い 武内の神のお告げ」

維茂 あら浅ましや我ながら。無明の酒の酔ひ心。睡む隙もなき中 に。あらたなりける夢の告と」

地謡 驚く枕に雷火乱れ。天地も響き風をちち乃。たつきも知らぬ山中に。おぼつかなしや恐ろしや」

地謡 不思議や今まで在りつる女。不思議や今まで在りつる女。と りどり化生の姿を現し或は巖に火焰を放ち。又は 虚空に 焰を降らし。咸陽宮の。煙乃中に。七尺乃屏風の上になほ。 あま 餘りてその丈。一丈乃鬼神の。角は かばく。眼は 日月面 を向くべき様ぞなき」

維茂 維茂少しも騒がずして」

地謡 維茂少しも給はず。南無や八幡大菩薩と。心に念じし。劔を抜いて待ちかけ給へば。微塵に為さんと。飛んで懸るを。飛び違ひ はずと組み鬼神の真中刺し通す 處を。頭を擱んで上らんと するを。切り拂ひ給へば 劔に恐れて巖へ登るを。引き下し刺 し通し 忽ち鬼神を従へ 給ふ。威勢の程こそ恐ろしけれ」

【注】

紅葉の戸隠山に狩りに来た、平維茂は山中で 寢を催す上臈(高貴な女性)に気がききます。

維茂は上臈達の寢を邪魔しないよう馬から降りて沓を脱ぎ通り過ぎようとします。

それに気づいた上臈は、山奥で出会ったのも何かの縁と寢に誘います。

維茂は断りますが、上臈は雨宿りのつもりでお酒と一緒に飲みましようかと誘います。

維茂もさすがに岩や木の様ではないので一緒に酒宴に加わります。

【宴】

楽しい時は過ぎていきます。

上臈の美しい舞も披露されます。

美しい紅葉の景色のなか、維茂は眠りに誘われ、 天気も悪くなってきました。

そして上臈は目を覚ますとなり再びと言いつつ 消え失せます。

【維茂の夢の中】

八幡神の使いの武内の神が上臈の正体は鬼女 と告げ、八幡神からの太刀を授けます。

【戦】

維茂は酒に酔ってしまった事を後悔しますが 太刀があり正夢であったこと知ります。

見れば周りの景色も変わり、雷が飛び交い、天地にも響いて嵐の様です。

上臈がとうとう本性を現します。

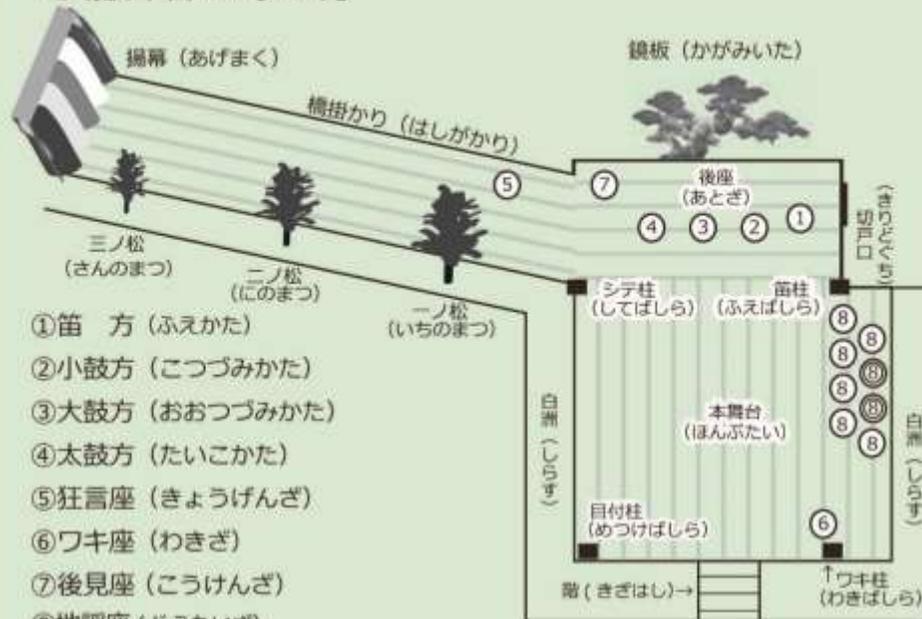
火をはき、炎を降らし、その姿は何と大きく 角が生え、目は太陽や月のように光っています。

維茂は鬼の姿に驚かないで、八幡大菩薩と祈り 太刀を抜いて鬼神に戦いを挑みます。

鬼神の攻撃をかわしながら、維茂は鬼神を打ち取ります。

維茂の姿も勇ましく恐ろしくなります。

## ●能舞台の呼び方



- ① 笛方 (ふえかた)
- ② 小鼓方 (こつづみかた)
- ③ 大鼓方 (おおつづみかた)
- ④ 太鼓方 (たいこかた)
- ⑤ 狂言座 (きょうげんざ)
- ⑥ ワキ座 (わきざ)
- ⑦ 後見座 (こうけんざ)
- ⑧ 地謡座 (じうたいざ)

◎のどちらかに地頭 (合唱のリーダー) が座ります。

## ●能ってなあに？

能は今から約650年前に、観阿弥・世阿弥親子によって大成された、日本のミュージカルで、現在残っている世界中の演劇の中で一番古く、世界無形文化遺産にも登録されています。能舞台も特徴があり、舞台が客席に突き出しており、より演者やお囃子の迫力や緊迫感が客席に伝わる様式です。本公演の時は皆さんの体育館が能舞台に大変身します。お楽しみに！

## ●舞台上にいる人たち

### 後見 (こうけん)

舞台上の役者たちのお手伝いをします。役者が病気になるったり倒れたとき、代役もします。

### 地謡 (じうたい)

合唱隊のようなもので、物語の情景や、登場人物の心理を謡で表現します。

### 太鼓 (たいこ)

牛皮でできていて、音が華やかで力強く、クライマックスを盛り上げます。太鼓が出ない演目もあります。

### 大鼓 (おおつづみ)

馬の皮と桜の木でできていて、演奏前に炭火で皮を乾燥させます。カーン！と真っ直ぐな甲高い音が響きます。

### 小鼓 (こつづみ)

大鼓と同じで馬の皮と桜の木でできており、叩くときに、皮を張っている調緒を締めたり緩めたりして、音に変化をつけます。

### 笛 (ふえ)

燐竹 (いろりのう) 上で長くいぶされた竹 (たけ) で出来ていて、能管 (ふえ) とも呼ばれ、能の楽器で唯一のメロディ楽器です。

## こんにちは、大槻能楽堂です

大槻能楽堂は大阪で、昭和10(1935)年に大槻十三が設立。公益性をもった能楽堂として運営しています。近くには大阪城や大阪歴史博物館もある、文化豊かなところです。設立時に造られた能舞台は、登録有形文化財に認定されています。一度足を運んでみてくださいね。

## 知ってますか？～10月1日は「国際音楽の日」です～

1977年にユネスコの要請で設立された国際音楽評議会という会議で、翌年の1978年から毎年10月1日を、世界の人々が音楽を通じてお互いに仲良くなり交流を深めていくために「国際音楽の日」とすることとしました。日本では、1994年から毎年10月1日を「国際音楽の日」と定めています。